

部会2 (BLCJ)	2020年度		2021年度	2022年度
	上期 実施内容	下期 実施予定		
各年度の実施内容 (概要)	実施内容の精査と各年度スケジュールの再検討	1. BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0に向けての検討 2. 仕様情報との連携の検討 3. 建築確認で必要な情報を具備した属性標準の検討 4. コード分類を仕様情報、施工、維持管理で活用する仕組みの検討 5. 標準・オブジェクトを実務での利用を支援するための技術的方策の検討 (BIMライブラリの検討等)	1. Ver2.0の確立 2. 仕様情報との連携の確立 3. 同左の確立 4. 動作の確立 5. 多様な配信方法も含むBIMライブラリ構築着手	・同BIMライブラリの運用開始(年度末) ・モニタリングの検討・運用開始(年度末)
実施内容 (詳細)	<input type="checkbox"/> 方針変更(1) : 建築確認での活用や標準仕様書との連携機能を持つ属性情報標準を盛り込んだ、BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0の確立を2021年度末までに行う。 <input type="checkbox"/> 方針変更(2) : 標準属性の検討に関わる他部会・団体との協力関係を強化する。 <input type="checkbox"/> 方針変更(3) : BIMライブラリの標準属性利用シーンの具体化とその実現を支援する環境の再検討を行う。	1.3. 関連 ・共有パラメータの活用を関係部会や団体に例示するための検討用サンプルモデルの作成と実用性の検討(建築) ・「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン(第1版)」の各ステージにおけるデータフローに見合った標準属性項目の整理 ・構造に係る属性情報の整理 ・標準属性を実務で活用するためのツールとデータ配信に関する検討 2.4. 関連 ・仕様情報との連携の検討、特記仕様書・施工管理要領との連携の検討、分類コードを活用して、それらを設計から維持管理に一元的につなぐシステムの検討 5. 関連 ・ユースケースの検討 ・技術開発動向を踏まえたBIMオブジェクトの多様な配信方法等の検討 ・BIMライブラリのあり方の検討 ・オブジェクトの充足度の検討等	同上に基づき検討中	同上に基づき今後検討
成果・目標	[目標] ・建築確認・標準仕様書との連携等を盛り込んだ、BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0の2021年度末確立を目指す。 ・上記標準を実装したBIMライブラリの構築・利用開始を2022年度内を目指す。 [成果] ・BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0の定義、標準の検討結果(中間報告)、段階的公開手法 ・仕様情報との連携、建築確認との連携、コード分類との連携・活用の検討結果(中間報告) ・標準化、ライブラリの形態なども含めた将来像とロードマップの作成		[目標] 同左 [成果] ・BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0 ・仕様情報との連携 ・建築確認で必要な情報を具備した属性標準の確立 ・コード分類を仕様情報、施工、維持管理で活用する仕組みの	[目標] 同左 [成果] BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0を実装した多様な配信方法を含むBIMライブラリの利用開始

部会 3	2020年度		2021年度
	上期 実施内容	下期 実施予定	
各年度の 実施内容 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BIMソフトウェアにおいて確認図面の表現標準を作成するために必要な入出力情報を定めるために作成した解説書（以下「解説書」）のフォローアップ</li> <li>・ 確認審査に適したビューワーソフトウェアの仕様の検討</li> <li>・ 戸建住宅等に対応した確認の仕組みの検討</li> </ul>		(同左)
実施内容 (詳細)	○一般建築 [2019年度検討成果関係] ・ 協議会ホームページを通じた成果の配布、及び活動状況報告 ・ 検討成果報告会開催による昨年度成果内容の普及 [2020年度検討関係] ・ 検討内容の整理、検討体制の構築	○一般建築 ・ 審査時にBIMモデルを閲覧した場合の、審査内容の理解度の変化の検証（解説書フォローアップ） ・ 確認審査に適したビューワーソフトウェアの仕様の検討	(同左)
	○戸建住宅等 [2020年度検討関係] ・ 検討内容の整理、検討体制の構築	○戸建住宅等 ・ 戸建住宅等に対応した確認の仕組みの検討	
成果・目標	下記内容に係る報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解説書の改訂版（年度末）</li> <li>・ 確認審査に適したビューワーソフトウェアの仕様案</li> <li>・ 戸建住宅等に対応した確認の仕組みの検討結果</li> </ul>		2020年度検討結果を踏まえて課題等を抽出し、抽出した課題について継続した検討 等

部会 4	2020年度		2021年度	2022年度
	上期 実施内容	下期 実施予定		
各年度の 実施内容 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国外における建築分類体系の翻訳と内容の整理</li> <li>・ BIMオブジェクトと分類の対応に係る調査分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内分類体系の素案策定とモデル事業への適用</li> <li>・ 他の部会と連携し、成果をBIMオブジェクトへ実装</li> </ul>	他の部会と連携し、モデル事業に適用した結果を踏まえた実践的な分類体系の策定を行う	国交省や他の部会、関連団体等と連携し、活動成果を市井に普及させるための活動を行う
実施内容 (詳細)	1) 国外における建築分類体系の翻訳と内容の整理。業務と照らし合わせた上での問題点等の整備 2) BIMオブジェクトの分類への対応に係る調査分析を行い、Uniclass2015と概念的分類との関係を取りまとめる	モデル事業(過去の実案件)を設定し、これに上半期で策定した分類体系を適用し課題の抽出と体系の見直しを行い、年度末に報告書にまとめる。建築分類体系利用方法の提案、そしてメリットが出てくる環境の提案	国際標準に則ったBIMモデル標準化案の策定と実証実験の完了	国際標準に則ったBIMモデルの確定と普及啓蒙活動の展開
成果・目標	(注：特に20年度末の成果物等を具体的に記入)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Uniclass2015をベースとしたBIM分類体系標準案の策定を行う</li> <li>・ モデル事業を設定し、建築分類体系の検討を行う</li> <li>・ 2020年度のモデル事業の成果を検証し、次年度以降の検討課題をまとめる</li> <li>・ モデル事業適用後の成果を、NBSと連携するための整理を進める (※日本でUniclass2015を活用するための助言や支援をいただくことを目的とした協定を、NBSと積算協会で締結した)</li> <li>・ 建築分類体系利用方法の提案</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開とパブコメ実施 (R3年1月末迄) <a href="http://www.bsij.or.jp/info/bsijconference.html">http://www.bsij.or.jp/info/bsijconference.html</a></li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部会2～5と連携したガイドライン案の策定を行う</li> <li>・ 設備概算のステージ毎の考え方と項目の整理を行う</li> </ul>	前年度の作業継続と新年度目標に則した活動を実施する

部会 5	2020年度		2021年度	2022年度	
	上期 実施内容	下期 実施予定			
各年度の 実施内容 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工種別に専門工業者が必要とする情報を整理(建具(SD)・ELV)</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の情報共有環境の調査</li> <li>・エビデンスデータの分析</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・左記情報が記載されている設計図書の分析</li> <li>・左記情報整理の工種拡大(建具(AW)・鉄骨階段)</li> <li>・データ連携仕様の策定</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の情報共有環境の調査</li> <li>・プロセスにおける共有データの検討</li> <li>・データ形式(IFC)定義(案)の検討</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工種別に専門工業者が必要とする情報を整理(工種拡大)</li> </ul> </li> <li>CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の情報共有環境の調査</li> <li>・エビデンスデータの定義</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部会との連携により、より広い範囲での情報共有環境の調査を行う</li> <li>・部会 2 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒標準BIM部品の仕様共通化</li> </ul> </li> <li>・部会 3 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒BIM確認申請とCDE, データ真正性</li> </ul> </li> <li>・部会 4 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒データ連携のコード化</li> </ul> </li> </ul>	
実施内容 (詳細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工種別に専門工業者が必要とする情報を整理(建具(SD)・ELV)</li> <li>⇒スペックシート(仮称)の作成</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の情報共有環境の調査</li> <li>・エビデンスデータの分析</li> </ul> </li> <li>○国際標準・基準への理解促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と我が国への展開方策の検討</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・左記情報が記載されている設計図書の分析</li> <li>・左記情報整理の工種拡大(建具(AW)・鉄骨階段)</li> <li>⇒スペックシート(仮称)の作成</li> <li>・データ連携仕様の策定</li> <li>⇒中間ファイルフォーマット(案)の作成</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の情報共有環境の調査</li> <li>・プロセスにおける共有データの検討</li> <li>・データ形式(IFC)定義(案)の検討</li> <li>⇒竣工データのIDM(案)作成</li> </ul> </li> <li>○国際標準・基準への理解促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・(同左)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携用データの抽出プログラムの開発</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・フローデータのCDEの検討と実証環境の構築</li> </ul> </li> <li>○国際標準・基準への理解促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIMプロセスのコラボレーションにおける各国の情報連携手法と環境調査</li> </ul> </li> <li>○データ真正性確保技術の確立</li> <li>○デジタル証明技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウド環境におけるデータ真正性、デジタル証明技術の適用状況の調査</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携用データの抽出プログラムの展開</li> <li>・標準BIM部品の仕様共通化</li> <li>・データ連携のコード化</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーカイブデータの利用基準の策定</li> </ul> </li> <li>○国際標準・基準への理解促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ連携にかかる各国基準の制定状況の把握</li> </ul> </li> <li>○データ真正性確保技術の確立</li> <li>○デジタル証明技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ連携環境において具備すべき技術的仕様の提案</li> </ul> </li> </ul>	
成果・目標	(注：特に20年度末の成果物等を具体的に記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スペックシート(仮称)の作成(建具(SD)・AW)・ELV・鉄骨階段)</li> <li>・工種別データ連携仕様書(中間ファイルフォーマット)(案)の策定</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有環境の調査まとめ</li> <li>・プロセスにおける共有データの検討</li> <li>・竣工データのIDM(案)作成</li> <li>・IFCへの実装準備</li> </ul> </li> <li>○国際標準・基準への理解促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIM活用の進展に伴う英国Plan of Work、BS、CIC文書、およびISO等の変遷の理解と我が国への展開方策の検討</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携用データの抽出プログラムの開発</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・フローデータのCDEの検討と実証環境の構築</li> </ul> </li> <li>○国際標準・基準への理解促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIMプロセスのコラボレーションにおける各国の情報連携手法と環境調査</li> </ul> </li> <li>○データ真正性確保技術の確立</li> <li>○デジタル証明技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウド環境におけるデータ真正性、デジタル証明技術の適用状況の調査</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携用データの抽出プログラムの展開</li> <li>・標準BIM部品の仕様共通化</li> <li>・データ連携のコード化</li> </ul> </li> <li>○CDE <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーカイブデータの利用基準の策定</li> </ul> </li> <li>○国際標準・基準への理解促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ連携にかかる各国基準の制定状況の把握</li> </ul> </li> <li>○データ真正性確保技術の確立</li> <li>○デジタル証明技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ連携環境において具備すべき技術的仕様の提案</li> </ul> </li> </ul>

設計三会	2020年度		2021年度	2022年度
	上期 実施内容	下期 実施予定		
各年度の実施内容 (概要)	・「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第1版）」 【別添参考資料】の深度化を検討	・「設計BIM標準ワークフローガイドライン 設計三会提言」まとめ	・「設計BIM標準ワークフローガイドライン 設計三会提言」についての意見交換	
実施内容 (詳細)	・検討内容の整理	[前半検討事項] ・オブジェクト別モデリングガイド ・ERIとBEPひな型  [後半検討事項] ・ライフサイクルコンサル業務・維持管理BIM作成業務の仕様書（案） ・設計3会カテゴリ別パラメータガイド	・関連部会、関連団体との意見交換	
成果・目標	<p>(注：特に20年度末の成果物等を具体的に記入)</p> <p>成果物：「設計BIM標準ワークフローガイドライン 設計三会提言」</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設計BIMの標準ワークフローについて</li> <li>2. 各ステージの業務内容と成果物の考え方</li> <li>3. 各ステージの意匠・構造・電気・設備のBIMデータ成果品（詳細）</li> <li>4. オブジェクト別のモデリングガイド</li> <li>5. 設計から施工、維持管理に引き継ぐBIMデータについて</li> <li>6. EIRとBEPひな型（案）</li> <li>7. ライフサイクルコンサル業務、維持管理BIM作成業務の仕様書（案）</li> </ol> <p>資料：設計3会カテゴリ別パラメータガイド</p> <p>※1.～3.と5.については、基本的に「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第1版）」【別添参考資料】を踏襲</p>		(必要に応じて、「設計BIM標準ワークフローガイドライン 設計三会提言」改訂)	